

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 電源を入れる／切る

本パソコンの電源の入れ方や、切り方について説明しています。

第3章 セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

第4章 ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

第5章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第6章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みにする前に	5
本書の表記	7
リサイクルについて	10
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	14
パソコン本体前面／上面	14
パソコン本体右側面	16
パソコン本体左側面	17
パソコン本体背面／下面	19
2 状態表示 LED について	21
3 コントロールエリアについて	23
第2章 電源を入れる／切る	
1 電源を入れる	26
注意事項	26
電源の入れ方	27
2 電源を切る	28
注意事項	28
電源の切り方	28
第3章 セキュリティ	
1 セキュリティについて	30
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	32
コンピュータウイルス	32
通信データの暗号化	32
ファイアウォール	32
3 不正使用からのセキュリティ	33
Windows のパスワード	33
管理者権限とユーザーアカウント	33
アクセス権と暗号化	33
BIOS のパスワード	34
4 パソコンの盗難防止	35
5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	36
パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	36
ハードディスクのデータ消去サービスについて	37

第4章 ハードウェア

1 周辺機器を取り付ける前に	40
取り扱い上の注意	40
2 ポインティングデバイスについて	41
タッチパネルについて	41
3 キーボードについて	44
ワイヤレスキーボードについて	44
USB キーボードの接続について	47
主なキーの名称と働き	48
4 バッテリについて	51
バッテリーを充電する	51
バッテリーを運用する	52
バッテリー残量を確認する	52
取り扱い上の注意	55
バッテリーパックを交換する	56
5 ポートリプリケータについて	58
ポートリプリケータを取り付ける	58
ポートリプリケータを取り外す	60
6 メモリについて	61
メモリを交換する	61
7 PC カードについて	64
取り扱い上の注意	64
PC カードをセットする	65
PC カードを取り出す	66
8 ハードウェアのお手入れ	68
パソコン本体のお手入れ	68
液晶ディスプレイのお手入れ	68

第5章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	70
2 BIOS セットアップの操作のしかた	71
BIOS セットアップを起動する	71
設定を変更する	73
各キーの役割	75
BIOS セットアップを終了する	76
3 ご購入時の設定に戻す	77
4 メニュー詳細	78
メインメニュー	78
詳細メニュー	79
セキュリティメニュー	81
省電力メニュー	82
起動メニュー	83

情報メニュー	83
終了メニュー	84
5 BIOS のパスワード機能を使う	85
パスワードの種類	85
パスワードを設定する	85
パスワードを忘れてしまったら	86
パスワードを変更／削除する	87
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	88
メッセージが表示されたときは	88
メッセージ一覧	89
第 6 章 技術情報	
1 仕様一覧	96
本体仕様	96
2 コネクタのピン配列と信号名	98
3 コアの取り付け	99
索引	100

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『はじめにお読みください』の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。また、このマニュアルおよび『はじめにお読みください』は、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- ・修理後は、パソコンの内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、フロッピーディスクなどに複写して、保管しておいてください。
- ・本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造終了後5年です。

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお申し込みください。

■ 契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

・ 定期保守サービス

トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。

業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。

・ 定額訪問修理サービス

万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。

・ 定額点検サービス

トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。

点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

■ スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

・ スポット訪問修理サービス

お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。

修理料金はその都度ご清算いただけます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。

・ スポット持込修理サービス

「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただけます。経済的な費用で修理できます。

・ スポット引取修理サービス

お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。

なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。

・ スポット点検サービス

お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。

機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。

※アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元へお問い合わせください。

液晶ディスプレイの特性について

以下は、液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・ TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 144 万個以上（解像度 800 × 600 の場合）の画素（ドット）より作られています。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- ・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。なお、低輝度で長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になることがあります。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
・原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
この装置は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。

本製品には、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスクなど）が含まれており、長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になります。

本装置の使用環境は、温度 5 ～ 35 ℃、湿度 20 ～ 80% (RH) です。また、保存環境は、温度 -10 ～ 60 ℃、湿度 20 ～ 80% (RH) です。

このパソコンは、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会が定める高調波ガイドラインの適用対象外です。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

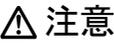


この製品の構成部品（プリント基板、CD/DVD ドライブ、ハードディスク、液晶ディスプレイなど）には、微量の重金属（鉛、クロム、水銀）や化学物質（アンチモン、シアン）が含有されています。

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROM ドライブ]:¥setup.exe
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをタップし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をタップする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にタップします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。

↓

「メイン」 - 「言語 (Language)」: 日本語 (JP)

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2003 年 2 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『ソフトウェアガイド』参照）。

■ 製品の呼び方

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windwos XP	Windows
Norton AntiVirus™ 2002	AntiVirus	
Adobe® Acrobat® Reader 5.0	Acrobat Reader	

■ 機種名表記

本文中の機種名を、次のように略して表記します。

機種名	本文中の表記
FM PenNote model T1	本パソコンまたはパソコン本体

リサイクルについて

■ パソコン本体の廃棄について

パソコンの液晶ディスプレイ内の蛍光管には水銀が含まれております。パソコンを廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

- 法人・企業のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分業の許可を取得している会社に処分を委託する必要があります。弊社は、「富士通りサイクルシステム」を用意し、お客様の廃棄のお手伝いをしておりますのでご利用ください。

- 個人のお客様へ

パソコンを廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

重要

- ▶ パソコン本体の廃棄時は、専用のソフトウェアなどを使用して、ハードディスク内のデータを消去することをお勧めします。消去しないまま廃棄すると、悪意のある人により、ハードディスク内のデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。詳しくは、「パソコン本体廃棄時のセキュリティ」(→ P.36)をご覧ください。

■ 富士通りサイクルシステムについて

弊社では 1998 年より、法人・企業のお客様から廃棄されるパソコン本体を「富士通りサイクルシステム」(有料)にて回収・リサイクルし、資源の有効利用に取り組んでおります。

お問い合わせ／お申し込み先：<http://eco.fujitsu.com> の「富士通りサイクルシステム」をご参照ください。

なお、法人・企業以外のお客様はお申し込みできません。

■ ご家庭から排出される PC グリーンラベル適用製品について

ご家庭から排出される使用済みパソコンの回収については、経済産業省 環境部会廃棄物・リサイクル小委員会パソコン 3R ワーキンググループと、環境省 パソコン等リサイクル検討会の合同会合で審議された結果を踏えて、平成 15 年 10 月を目途に適切な方策を導入することになっております。

このため、PC グリーンラベル適用製品の各ご家庭からの具体的な回収開始時期及び回収方法等につきましては、別途、弊社よりインターネットなどを通じてご案内申し上げます。

■ 使用済バッテリー（リチウムイオン電池のバッテリーパック、バッテリーユニット）の廃棄について

バッテリー（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。バッテリーを火中に投げると破裂のおそれがあります。使用済バッテリーは、ビニールテープなどで絶縁処理をしてください。

- 法人・企業のお客様へ

使用済バッテリーを廃棄する場合は、富士通株式会社環境本部（電話番号：044-754-3411）にお問い合わせください。

- 個人のお客様へ

使用済バッテリーは、「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」に加入の販売店などに設置してあるリサイクルBOXに入れてください。

詳細は、社団法人電池工業会小型二次電池再資源化推進センターのホームページ（<http://www.JBRC.com/>）をご参照ください。



このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

Microsoft、Windows、MS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第 1 章

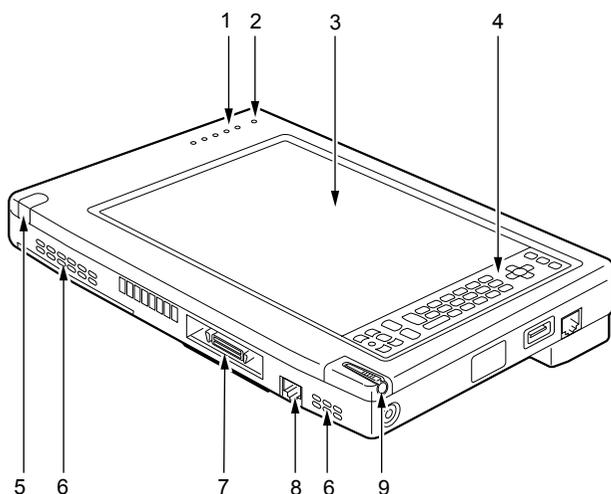
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	14
2 状態表示 LED について	21
3 コントロールエリアについて	23

1 各部の名称と働き

パソコン本体前面／上面



1 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「各部名称」－「状態表示 LED について」(→ P.21)

2 内蔵マイク

音声 (モノラル) を録音できます。

POINT

- ▶ カラオケソフトなど、マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きる場合があります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」(消音)にしてください(→『ソフトウェアガイド』の「機能」－「音量の設定」)。
- ▶ 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

3 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

本パソコンは、液晶ディスプレイ上面にタッチパネルが搭載されています。

「ハードウェア」－「タッチパネルについて」(→ P.41)

POINT

▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・ 本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 144 万個以上（解像度 800 × 600 の場合）の画素（ドット）より作られています。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

4 コントロールエリア

液晶ディスプレイの明るさの調節や、スピーカーの音量調節や ON/OFF などを切り替えます。また、テンキーやカーソルキーなども備えています。

「各部名称」－「コントロールエリアについて」(→ P.23)

5 ワイヤレスキーボード受光部

別売のワイヤレスキーボードの赤外線信号を受信します。

「ハードウェア」－「ワイヤレスキーボードについて」(→ P.44)

6 吸気孔

排気孔が空気を取り込むための穴です。

⚠ 注意



- 吸気孔はふさがらないでください。
パソコン本体内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

7 拡張コネクタ

別売のポートリプリケータを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」－「ポートリプリケータについて」(→ P.58)

POINT

- ▶ コネクタ部分を手で触れないでください。

8 LAN コネクタ

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

LAN を使用になる前に、LAN ケーブルに添付のコアを取り付けてください (→ P.99)。

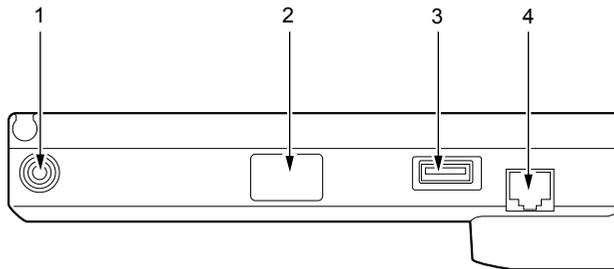
『ソフトウェアガイド』の「機能」－「内蔵 LAN について」

9 ペン収納スロット

ペンを収納するスロットです。

「ハードウェア」－「タッチパネルについて」(→ P.41)

パソコン本体右側面



1 DC-IN コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

2 赤外線通信ポート

赤外線通信を行うためのインターフェースです。

POINT

- ▶ 赤外線通信ポートは、「ワイヤレスリンク」にてお使いになります。
- ▶ 赤外線通信を行っているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。
- ▶ 赤外線通信ポートとポートリプリケータのシリアルコネクタは同時にご使用にはなりません。
- ▶ シリアルコネクタをお使いになる場合には、BIOSセットアップでの設定が必要になります(→ P.79)。
- ▶ 本パソコンご購入時は、赤外線通信ポートがお使いになれる状態です。

3 USB コネクタ

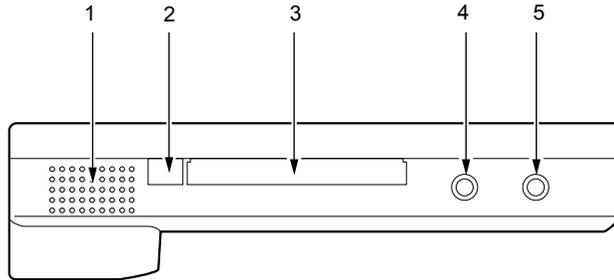
USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。本パソコンの USB コネクタは、USB1.1 準拠です。USB2.0 に対応していません。

4 モデムコネクタ

モジュラーケーブルを接続するためのコネクタです。

『ソフトウェアガイド』の「機能」－「内蔵モデムについて」

パソコン本体左側面



1 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

「各部名称」－「コントロールエリアについて」(→ P.23)

POINT

- ▶ スピーカーとマイクを同時に使用すると、ハウリングを起こす場合があります。このような場合は、コントロールエリアやボリュームコントロールで調節してください。

2 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すときに添付のペンの背で押します。

「ハードウェア」－「PC カードを取り出す」(→ P.66)

3 PC カードスロット

別売の PC カードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」－「PC カードをセットする」(→ P.65)

⚠ 注意

- 聴力障害
- ヘッドホン端子、マイク端子に接続するときは、パソコン本体の音量を最小にしてから接続してください。
機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

4 ヘッドホン端子

市販のヘッドホンなどを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。

ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

⚠ 注意

- 聴力障害
- ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- 聴力障害
- ヘッドホンなどをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

5 マイク端子

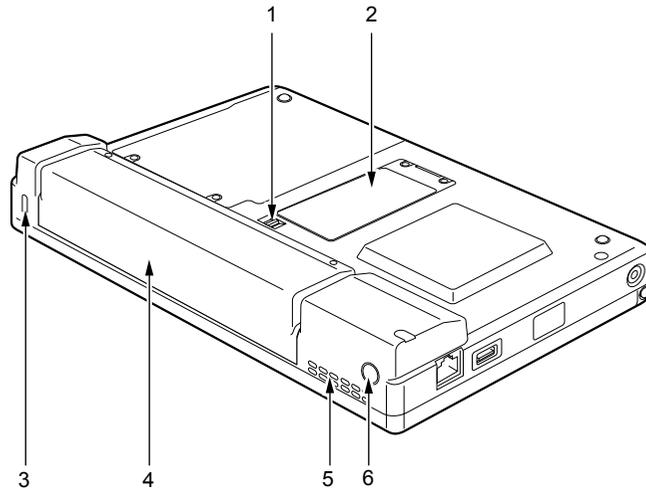
市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。

ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

POINT

- ▶ マイクをお使いの場合、音量を上げすぎると、スピーカーとマイク間でハウリングを起す場合があります。

パソコン本体背面／下面



1 バッテリーパックロック

バッテリーパックを取り外すときにスライドさせます。

2 拡張 RAM モジュールスロット

本パソコンのメモリが取り付けられています。

取り付けられているメモリを交換して、メモリを増やすこともできます。

「ハードウェア」－「メモリについて」(→ P.61)

3 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- ▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

商品名：SLIM MICROSAVER

商品番号：0522011

(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

4 バッテリーパック

バッテリーパックが装着されています。

「ハードウェア」－「バッテリーパックを交換する」(→ P.56)

5 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。

⚠ 注意



故障

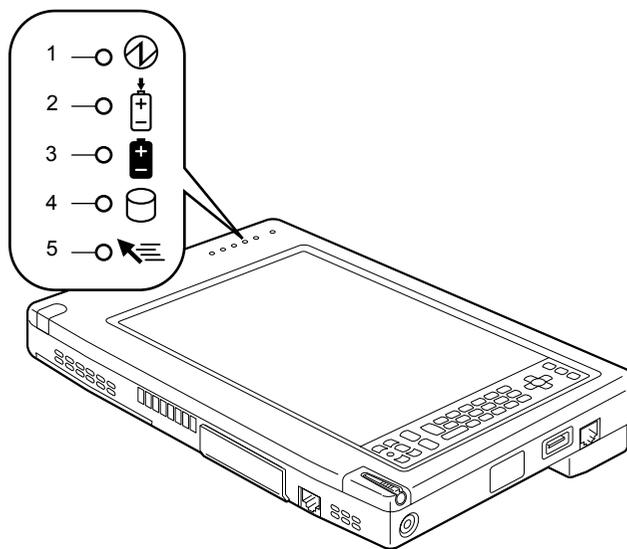
- 排気孔はふさがらないでください。
内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

6 電源ボタン

パソコン本体の電源を入れたり、パソコン本体をスタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのボタンです。4秒以上押し続けると、電源が強制的に切れます。通常は4秒以上押さないでください。

2 状態表示 LED について

本パソコンでは、バッテリー残量や充電状態、ハードディスクへのアクセスなどを状態表示 LED で表します。



1 Power LED

本パソコンの状態を表示します。

LED 表示	パソコン本体の状態
グリーン点灯	動作状態
グリーン点滅	スタンバイ状態
消灯	電源 OFF

2 充電 LED

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、バッテリーパックの充電状態を表示します。

LED 表示	バッテリーパックの充電状態
グリーン点灯	充電終了またはバッテリーパック未装着で非充電
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中 (バッテリー温度アラーム時など※)
消灯	AC アダプタ未接続により充電動作なし

※：バッテリー温度アラームとは、バッテリーパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなった場合に、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止することです。

3 バッテリ残量 LED

本パソコンに接続されているバッテリーパックの残量を表示します。

LED 表示	バッテリーの状態
グリーン点灯	バッテリー残量 100～50%※
オレンジ点灯	バッテリー残量 49～13%※
レッド点灯	バッテリー残量 12%以下※
オレンジ点滅	バッテリー残量計測中 (バッテリーパック装着後 4 秒間)
レッド点滅	バッテリー異常時
消灯	バッテリー満充電かつ電源 OFF 時、またはバッテリー未接続時

※：動作状態またはバッテリー充電中。

POINT

- ▶ 電源 OFF 時にバッテリーパックを装着すると、バッテリー残量 LED はオレンジ点滅後、そのときのバッテリー残量を 5 秒間表示します。
なお、バッテリーパックが充電されていない場合はそのまま消灯します。
- ▶ スタンバイ状態でバッテリーを充電していないときは、LED 表示が点灯ではなく点滅になります。その場合の点滅の間隔は、1 秒間点灯し、5 秒間消灯となります。

4 HDD アクセス LED

本パソコンの内蔵ハードディスクにアクセスしている場合に表示します。

LED 表示	ハードディスクアクセス状態
グリーン点灯	ハードディスクアクセス中
消灯	ハードディスクアクセスなし

POINT

- ▶ HDD アクセス LED が点灯中は、電源ボタン(→ P.20)を操作しないでください。ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

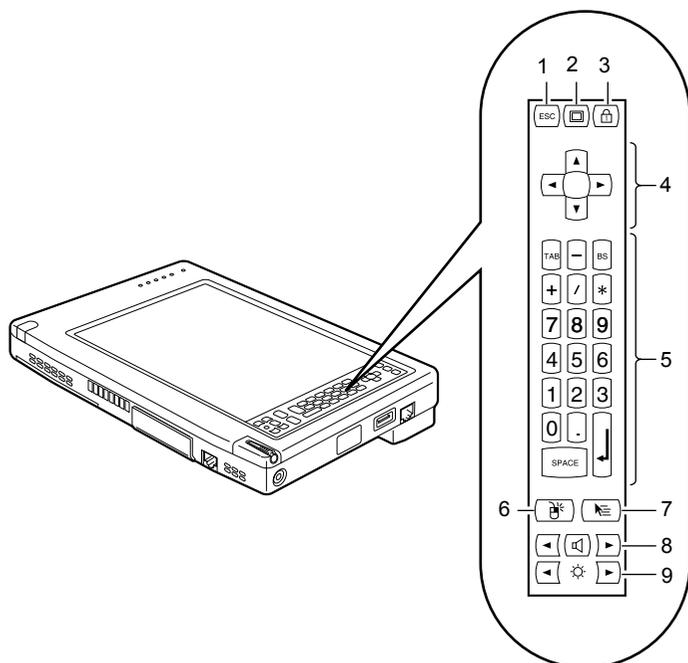
5 ホバーリング LED

本パソコンがホバーリングモード (→ P.42) になっている場合に表示します。

LED 表示	パソコン本体の状態	内容
グリーン点灯	動作状態	ホバーリングモード状態
消灯		通常状態

3 コントロールエリアについて

コントロールエリアは、各ボタンをタップして、液晶ディスプレイの明るさの調節や、スピーカーの ON/OFF の切り替えや音量調節などを行うことができます。また、テンキーやカーソルキーなども備えています。ペンでタップ (→ P.43) してください。



1 【Esc】キー

キーボードの【Esc】キー (→ P.49) と同じ機能を備えています。

2 表示切り替えボタン

表示装置の切り替えをします。

液晶ディスプレイ→外部ディスプレイ→同時表示→液晶ディスプレイ…の順に表示が切り替わります。

POINT

▶ 外部ディスプレイを接続するには、別売のポートリプリケータ (FMP-CBX8) が必要です。

3 【Num Lk】キー

キーボードの【Num Lk】キー (→ P.49) と同じ機能を備えています。

本パソコンご購入時はテンキーモードです。

4 カーソルキー

キーボードのカーソルキー (→ P.49) と同じ機能を備えています。

5 テンキー

キーボードのテンキー (→ P.48) などと同じ機能を備えています。

テンキーは、テンキーモードのときに有効です。テンキーが無効のときは、【Num Lk】キー (→ P.49) をタップしてテンキーモードに切り替えてください。なお、本パソコンご購入時はテンキーモードです。

6 右タップボタン

右タップ (→ P.43) を行う場合に使用します。

7 ホバーリングボタン

ホバーリングモード (→ P.42) の ON/OFF を切り替えます。

ホバーリングモード中は状態表示 LED のホバーリング LED (→ P.22) がグリーン点灯します。

8 スピーカーボタン

スピーカーの ON/OFF の切り替えや音量の調節をします。

 でスピーカーの ON/OFF を切り替えます。タップして「ピッ」と音がした場合は ON、音がしない場合は OFF です。

左側の  で音量を小さく、右側の  で音量を大きくします。

9 ブライトネスボタン

液晶ディスプレイのバックライトの明るさを調節します。

左側の  で暗く、右側の  で明るくします。

POINT

- ▶ 輝度調整が起動した状態でブライトネスボタンを使用する場合、調整した結果がすぐにアプリケーションに反映されません。アプリケーションを一度終了させ再度起動させると反映されます。

第2章

電源を入れる／切る

本パソコンの電源の入れ方や、切り方について説明しています。

1 電源を入れる	26
2 電源を切る	28

1 電源を入れる

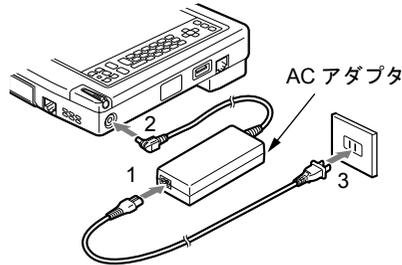
注意事項

- ご購入後、初めて電源を入れる場合は、周辺機器の取り付けなどは行わないでください。
- 電源を入れてから、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。
- 電源を入れる際、ノイズが発生することがあります。その場合は、スピーカーボタンをタップして、音量を小さくしてお使いください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れしないでください。再度電源を入れる場合は、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
- ACアダプタなど磁界を発生する機器とFDDユニットは離して使用してください。
- 電源を入れても画面に何も表示されないときは、次のことを確認してください。
 - ・ 状態表示 LED のバッテリー残量 LED を確認してください。点灯している場合は、ペンで操作面に触れてください。また、ブライトネスボタンをタップして、明るさを調整してください。点滅している場合は、電源ボタンを押して動作状態にしてください。消灯している場合は、電源を入れてください。
 - ・ バッテリー運用している場合は、状態表示 LED のバッテリー残量 LED を確認してください。本パソコンご購入時やバッテリーが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。

電源の入れ方

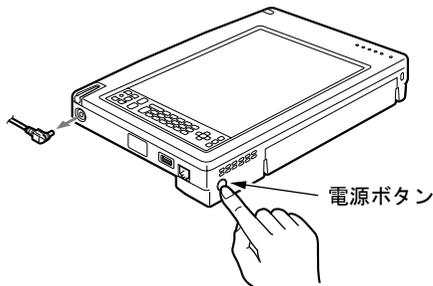
1 ACアダプタを接続します。

ACアダプタにACケーブルを接続し (1)、パソコン本体のDC-IN コネクタに接続します (2)。その後、プラグをコンセントに接続します (3)。



2 電源ボタンを押します。

パソコン本体に電源が入り、POST (自己診断画面) が始まります。また、状態表示 LED のバッテリー残量 LED がバッテリー残量に応じて点灯します。



POINT

- ▶ POST とは、Power On Self Test (パワーオンセルフテスト) の略で、パソコン内部に異常がないか調べる自己診断テストです。本パソコンの電源が入ると自動的に行われ、OS の起動直前に完了します。
- ▶ POST 中に電源を切ると、自己診断テストが異常終了したと診断されます。本パソコンでは、自己診断テストの異常終了回数をカウントしており、3 回続いた場合、4 回目の起動時にエラーメッセージを表示します。POST 中は、不用意に電源を切らないでください。

2 電源を切る

注意事項

- 電源を切った後、すぐに電源を入れしないでください。再度電源を入れる場合は、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
- 電源を切る際、ノイズが発生することがあります。その場合は、音量を下げてください。

電源の切り方

次の操作を行うと OS が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、状態表示 LED の PowerLED (→ P.21) が消えます。

「スタート」ボタン→「終了オプション」→「電源を切る」の順にタップします。



POINT

- ▶ 上記操作で電源が切れない場合、次の手順で電源を切ってください。
キーボードを接続している場合
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
 2. 「シャットダウン」→「コンピュータの電源を切る」の順にタップします。キーボードを接続していない場合
 1. 電源ボタン (→ P.20) を 4 秒以上押します。

第3章

セキュリティ

3

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて	30
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	32
3 不正使用からのセキュリティ	33
4 パソコンの盗難防止	35
5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	36

1 セキュリティについて

重要

- ▶ セキュリティ機能は完全な本人認識照合を保障するものではありません。当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
セキュリティは、本パソコンを使用している方が責任をもって行ってください。
- ▶ セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。パソコンを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておく必要があります。

パソコンの使用に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本パソコンではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。

ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、簡単に説明しています。

■ コンピュータウイルス

パソコンにトラブルを起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールを通じてパソコンに感染することにより、パソコンのデータを破壊するなどの被害を受けます。

■ 情報の漏えい

ネットワークを利用してパソコンの中に入り込み、重要なデータを流出したり破壊したりします。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したパソコンから不正に情報が流出することがあります。

POINT

- ▶ フロッピーディスクやCD-R/RW ディスク、MO ディスクなどを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。ディスクの読み取り部に傷をつけたり、データを完全に消去したりすることをお勧めします。

■ 不正使用

利用する権限のないパソコンを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

■ 盗難

不正にパソコンが持ち出され、保存しているデータを不正に使用されることがあります。

■ トラブルに備えて

パソコンのセキュリティには、これで完全というものはありません。日ごろからデータのバックアップをとったり、ソフトウェアを最新のものにアップデートしたりなどの対策をしておけば、被害を少なくすることができます。

詳しくは、『ソフトウェアガイド』の「トラブルシューティング」－「トラブルに備えて」をご覧ください。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどのネットワークを利用して、情報を伝達することが多くなりました。そのため、コンピュータウイルスへの感染や、パソコンの情報を漏えいされる危険性も高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているパソコンを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールを通じてパソコンに感染し、データを破壊したりパソコンを起動できなくしたりします。また、ウイルス感染したパソコンを使用することによって、無意識のうちに他のパソコンにウイルスをまき散らすこともあります。本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「AntiVirus」が添付されています。AntiVirus は、ウイルス定義ファイルを使用して、ウイルスの侵入と感染を自動的にチェックします。

詳しくは、『ソフトウェアガイド』の「トラブルシューティング」－「コンピュータウイルス対策」をご覧ください。

通信データの暗号化

重要なデータをネットワーク経由でやり取りしている場合、ネットワーク上を流れるデータから情報の漏えいを招くことがあります。そのため、データを暗号化して送信することが増えてきています。

Windows XP には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。ここでは暗号化機能の1つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」を紹介します。

IPSec は、TCP/IP プロトコルで通信を行っている場合、アプリケーションに依存することなく、データを暗号化することができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

ファイアウォール

パソコンを外部のネットワークに接続している場合、外部のネットワークから不正にアクセスして情報を改ざんされることがあります。そのため、外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作って、外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windows XP では、インターネット接続ファイアウォール (ICF) が標準で搭載されています。インターネット接続ファイアウォール (ICF) については、Windows のヘルプをご覧ください。

3 不正使用からのセキュリティ

パソコンを使用する権限のない人が不正にパソコンを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からパソコンを守ることが必要になってきています。

ここでは、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、パソコンの安全性も高まります。

重要

- ▶ パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留める際は、安全な場所に保管してください。また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更するなど、他人に知られないように気を付けてください。

Windows のパスワード

OS の起動時、スタンバイや休止状態からのレジューム時に変更します。複数のユーザーで 1 台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windows XP では、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。管理者がパソコンを使用するユーザーを管理することで、パソコンの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows XP でファイルシステムとして「NTFS」を使用すると、次のようなことができます。

- フォルダやファイルへのアクセス権を設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- フォルダやファイルを暗号化
不慮の事故でハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。

アクセス権を設定したり暗号化することにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

BIOS のパスワード

パソコンの起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限が付きま

す。また、パソコンのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておく、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.85) をご覧ください。

4 パソコンの盗難防止

パソコンの盗難という危険性があります。パソコンを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、パソコン自体にも盗難防止用の機能が備えられています。本パソコンは、盗難防止用ロックに盗難防止用ケーブルを取り付けることにより、パソコン本体の盗難から守ることができます。盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。盗難防止用ケーブルは、次のものを購入してください。

- ・商品名 : SLIM MICROSAVER
- ・商品番号 : 0522011

(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ : 03-3342-5375)

盗難防止用ロックの場所については、「各部名称」－「パソコン本体背面／下面」(→ P.19)をご覧ください。

5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・添付の「リカバリ CD-ROM」を使って、ご購入時の状態に戻す

などの作業ををすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを読み出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本パソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ完全消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	ランダムデータ2回書（標準）から海外規格（NSA,DoD・・・）に対応
ハード消去	消磁装置による磁気破壊（媒体表面水平磁力 5000 ガウス）

詳しくは、ストレージ統合サービス（<http://storage-system.fujitsu.com/jp/service/>）をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先 メールアドレス：erase@support.fujitsu.com

Memo

4

第4章

ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	40
2 ポインティングデバイスについて	41
3 キーボードについて	44
4 バッテリーについて	51
5 ポートリプリケータについて	58
6 メモリについて	61
7 PC カードについて	64
8 ハードウェアのお手入れ	68

1 周辺機器を取り付ける前に

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付け後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

- **マニュアルをご覧ください**

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

- **純正品をお使いください**

弊社純正のオプション機器については、「システム構成図」をご覧ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

- **ACPIに対応した周辺機器をお使いください**

本パソコンはACPIモードに設定されています。ACPIモードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。

- **周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください**

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

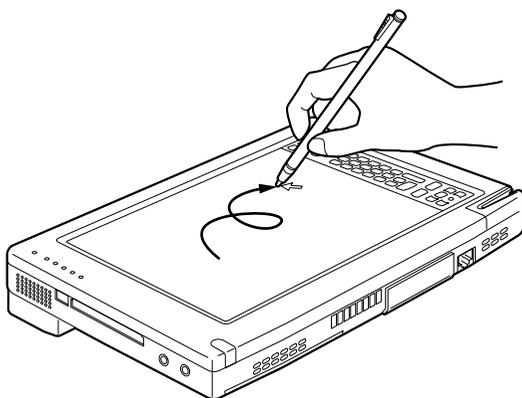
重要

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定をしてください。

2 ポインティングデバイスについて

タッチパネルについて

本パソコンは、画面上（タッチパネル上）をペンで直接触れてマウスポインタを操作します。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。



画面上でペンを移動させると、マウスポインタが移動します。

重要

- ▶ ペンを画面に触れたままPCカードのセット／取り出しを行うと、ペン操作が行えなくなる場合があります。この場合は、パソコン本体を数回スタンバイ／レジュームさせてください。

POINT

- ▶ タッチパネルは、添付のペンで操作してください。指先やボールペンなどで操作すると、パネルが汚れたり、傷がついたりします。
- ▶ ペン先が引っ込まない程度で操作してください。
過度の力を加えると、タッチパネルやディスプレイが破損する恐れがあります。
- ▶ ペンを使ってタッチ操作をするときは、手が触れないように気をつけてください。手で触ってしまうとマウスポインタが動いてしまいます。
- ▶ ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。
商品名：タッチパネル用ペン FMP-PN1
商品番号：0635090
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

● ホバーリングモードについて

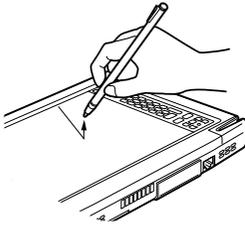
本パソコンでは、小さなアイコンを選択する場合など、ペンで細かい作業を行う際に、ホバーリングモードを使用することができます。ホバーリングモードは、マウスポインタの位置を決定してからタップなどの操作を行うことができるので、高精度な作業を行う場合に便利です。切り替えは、コントロールエリア (→ P.23) のホバーリングボタンをタップします (ホバーリングモード中は状態表示 LED のホバーリング LED (→ P.22) がグリーン点灯します)。

なお、ホバーリングモード時は、マウスポインタの操作が次のようになります。

ホバーリングモード ON	
タップ	ダブルタップ
ダブルタップ	トリプルタップ

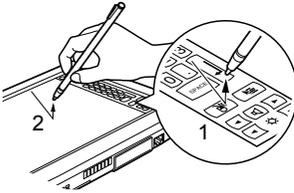
■ タッチパネルの使い方

● タップ



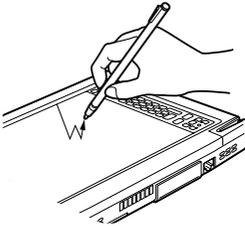
ペンで画面を1回押すことです。

● 右タップ



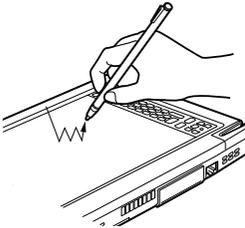
コントロールエリア (→ P.23) の右タップボタンをタップ後 (1)、画面をタップ (2) することです。右タップになるのは1回のみです。

● ダブルタップ



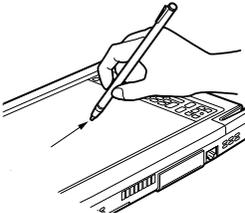
ペンで画面を素早く2回連続して押すことです。

● トリプルタップ



ペンで画面を素早く3回連続して押すことです。ホバーリングモードなどで使用します。

● ドラッグ



ペンの先を画面に軽く押し付けながらなぞります。

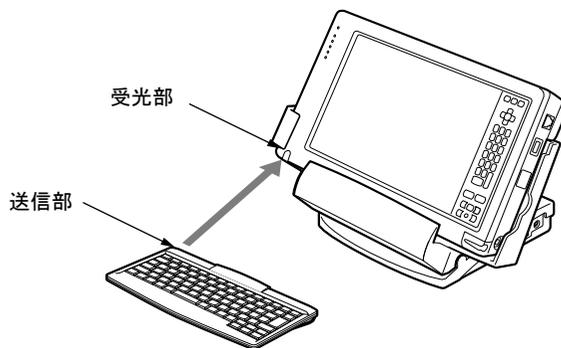
3 キーボードについて

ワイヤレスキーボードについて

ワイヤレスキーボードは、キーボードの操作を赤外線でパソコン本体に送信しています。ワイヤレスキーボードを使用する場合は、パソコン本体をポートリプリケータ（→P.58）に取り付けて固定し、キーボードの送信部をパソコン本体のワイヤレスキーボード受光部（→P.15）に向けて操作してください。距離は10～30cmの範囲での使用をお勧めします。

重要

- ▶ ワイヤレスキーボードを使用する場合は、別売のポートリプリケータ（→P.58）にパソコン本体をしっかりと固定してください。不安定なまま使用すると、パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。



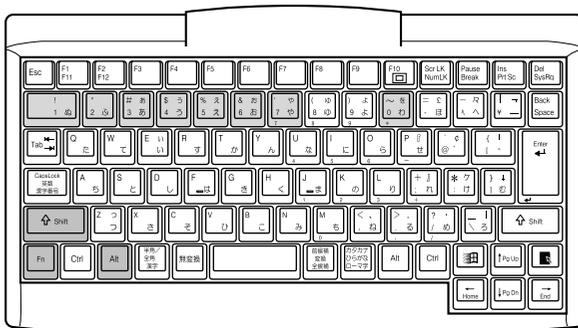
POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードを使用する場合は、ポートリプリケータのキーボードコネクタにはキーボードを接続しないでください。ポートリプリケータに接続したキーボードが優先され、ワイヤレスキーボードが使用できなくなります。
- ▶ ワイヤレスキーボードを、パソコン本体の赤外線通信ポートに向けて操作しないでください。特に赤外線通信中は、ワイヤレスキーボードを使用しないでください。赤外線通信ポートが正常に動作しなくなります。
- ▶ 以下の場合、うまく通信できないことがあります。
 - ・ ワイヤレスキーボードの送信部とパソコン本体が、真正面に向き合っていない場合
 - ・ ワイヤレスキーボードの送信部とパソコン本体の距離が離れすぎたり、間に遮断物がある場合
 - ・ テレビなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作している場合
 - ・ 直射日光や、蛍光灯・白熱灯などの強い光がワイヤレスキーボードの送信部やパソコン本体の受光部に当たっている場合
 - ・ ワイヤレスキーボードの送信部やパソコン本体の受光部が汚れている場合
- ▶ ワイヤレスキーボードのボタンが押されたままになると、電池が短時間で消耗します。ワイヤレスキーボードの上に物を載せたり、ひっくり返して放置しないでください。

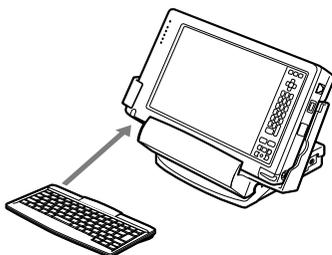
■ ID の設定について

複数のワイヤレスキーボードを隣接して使用する場合は、混信を防ぐため、各ワイヤレスキーボードに異なる ID を設定します。ID は、キーボードの【Fn】+左側の【Alt】+左側の【Shift】+【0】～【7】キーを押して設定します。

- 1 【Fn】+左側の【Alt】+左側の【Shift】+【0】～【7】キーで任意の ID をキーボードに設定します。



- 2 ワイヤレスキーボードをパソコン本体に向けてキーを 2 回押し、パソコン本体に ID を認識させます。



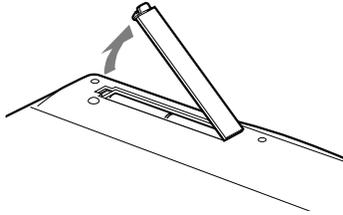
POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードの工場出荷時の ID は“0”に設定されています。
- ▶ 次の場合はパソコン本体に設定した ID は解除されます。
 - ・ パソコン本体の電源を切ったとき
 - ・ パソコン本体をスタンバイまたは休止状態にさせたとき
- ▶ 電源を入れた直後、またはレジューム直後のパソコン本体は、どのIDのワイヤレスキーボードからでもキー入力が可能であり、初めて受信したキーボードの ID がパソコン本体の ID となります。
- ▶ 動作状態のパソコン本体の ID 設定（変更）は、パソコン本体とワイヤレスキーボードの ID が一致していないと行えません。
- ▶ ワイヤレスキーボードのキー入力が正常に行えなくなった場合は、いったん電池を取り出し、数回キーを押したあと、再度電池を入れてください。それでも正常に入力できない場合は、電池の寿命と考えられます。新しい電池と交換してください。

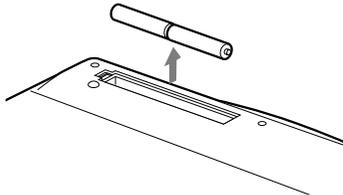
■ 電池交換について

ここでは、ワイヤレスキーボードの電池交換について説明します。ワイヤレスキーボードの電池は、単4電池を2本使用します。

- 1 電池カバーを取り外します。

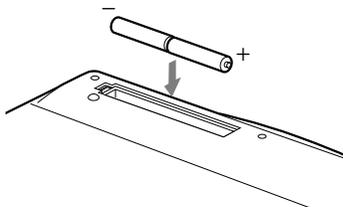


- 2 電池を取り出します。

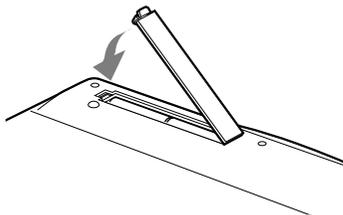


- 3 新しい電池を取り付けます。

電池のプラス (+) とマイナス (-) の向きを確認して正しく入れてください。



- 4 電池カバーを取り付けます。



⚠ 注意



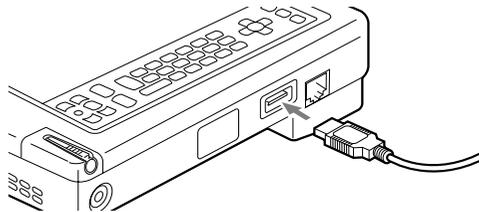
- プラス (+) とマイナス (-) の向きを確認して、正しく入れてください。
- 消耗した電池と新しい電池を混ぜたり、種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- ワイヤレスキーボードを長期間使用しない場合は、電池の液漏れなどによるトラブルを防ぐため、電池を取り出してください。万一液漏れしたときは、水に浸した布を固く絞って金具、周囲を清掃し、その後、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。
- 電池から漏れた液が体についたときは水でよく洗い流してください。また目や口に入ったときは、よく洗い流した後、直ちに医師の診察を受けてください。
- 電池ボックスの端子をショートさせないでください。
- 電池を水や火の中に入れたり、分解しないでください。
- 電池を充電しないでください。
- 電池に直接ハンダ付けしないでください。
- 極端な温度条件下で保管しないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 電池を廃棄するときは、各自治体の指示に従ってください。

👉 重要

- ▶ ワイヤレスキーボードは、電池交換を行うと設定していた ID (→ P.45) が初期値 (0) に戻ります。電池交換後に任意の ID を再設定してください。

USB キーボードの接続について

USB キーボードのコネクタを、パソコン本体右側面の USB コネクタに接続します。このとき、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。



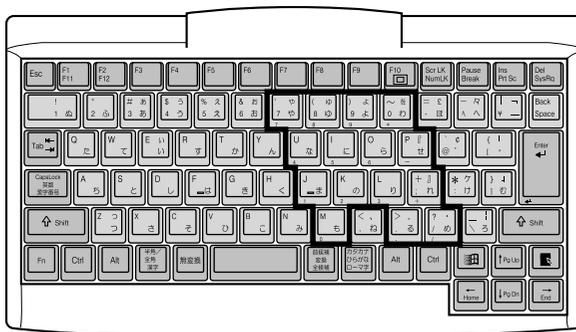
🔍 POINT

- ▶ 本パソコンは、別売の USB マウス (FMV-MO203S)、FDD ユニット (USB) (FMV-NFD52S) を使用することもできます。USB 機器の使用については以下の点に留意してください。
 - ・パソコン本体の電源が入った状態で取り付け/取り外しを行えます。
 - ・取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。
 - ・FDD ユニット (USB) を、起動ディスクとして使用する場合は、BIOS セットアップの「メインメニュー」－「フロッピーディスク A」を「使用しない」に設定してください (→ P.78)。

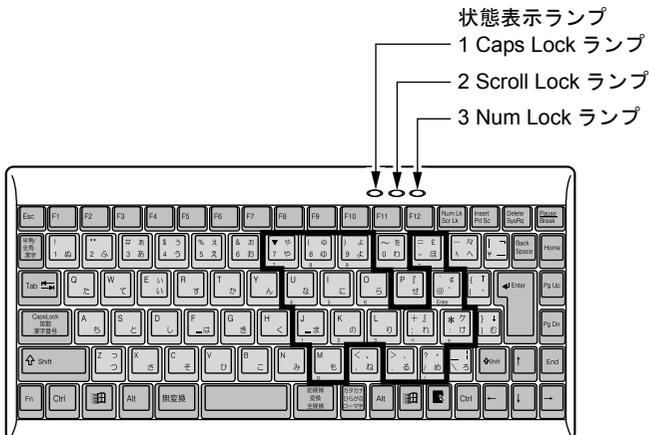
主なキーの名称と働き

-  : 制御キー
-  : 文字キー

〈ワイヤレスキーボード〉



〈USB キーボード〉



POINT

- ▶ 文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキーとして使えるようになるモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Shift】 + 【Num Lk】キーで行い、上図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面にプリントされています。
- ▶ ワイヤレスキーボードで Caps Lock、Scroll Lock、Num Lock を切り替える場合は、必ずパソコン本体に向けて操作を行い、使用後は元の状態に戻してください。
- ▶ 状態表示ランプについて（USB キーボードのみ）
 1. Caps Lock ランプ
【Shift】 + 【Caps Lock】キーを押し、英大文字固定モードになったときに点灯します。
 2. Scroll Lock ランプ
【Scr Lk】キーを押すたびに点灯または消灯します。
 3. Num Lock ランプ
【Shift】 + 【Num Lk】キーを押し、キーボードがテンキーモードになったときに点灯します。

【Esc】キー

現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

【F1】～【F12】キー

アプリケーションごとに使い方が決められます。

POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードの【F10】キーにプリントされている (□) はサポートしていません。

【Fn】キー

本パソコン独自のキーです。

【Space】キー

1文字分の空白を入力するのに使います (キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです)。

【↑】【↓】【←】【→】キー

カーソルを移動するときに使います。

【Enter】キー

入力した文字を確定するときなどに使います。
リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

【Ctrl】キー

他のキーと組み合わせて使います。

【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。

【Caps Lock】キー

アルファベットを入力するときに使用します。【Shift】キーと一緒に押して、大文字／小文字を切り替えます。

【Num Lk】キー

テンキーモードにするときに【Shift】キーと一緒に押します。再度押すと解除します。

【Scr Lk】キー

アプリケーションごとに機能が異なります。【Fn】キーと一緒に押します。

【Prt Sc】キー

画面のハードコピーを取るときに押します。

【Pause】キー

画面の表示を一時的に止めるときなどに押します。

【Break】キー

アプリケーションごとに機能が異なります。

【Insert】キー

文字を入力するときに、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

【Delete】キー

文字を削除するときに押します。
また、【Ctrl】キーと【Alt】キーと一緒に押すと、本パソコンを再起動できます。

【Home】キー

カーソルを行の最初に移動するときに押します。
【Ctrl】キーも一緒に押すと、文章の最初に移動します。

【End】キー

カーソルを行の最後に移動するときに押します。

【Ctrl】キーも一緒に押すと、文章の最後に移動します。

【Pg Up】キー

前の画面に切り替えるときに押します。

【Pg Dn】キー

次の画面に切り替えるときに押します。

【Back Space】キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

【SysRq】キー

アプリケーションでサポートしている場合、キーボードをリセットするときなどに使用します。【Alt】キーと一緒に押します。

【 (Windows) キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

【 (アプリケーション) キー

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。また、右タップと同じ役割をします。

4 バッテリーについて

バッテリーを充電する

- 1** AC アダプタを接続します。
AC アダプタを接続すると充電が始まり、充電状態に合わせ充電 LED が点灯します。
- 2** バッテリーの充電は、充電 LED がグリーン点灯したことを確認し、AC アダプタを取り外します。

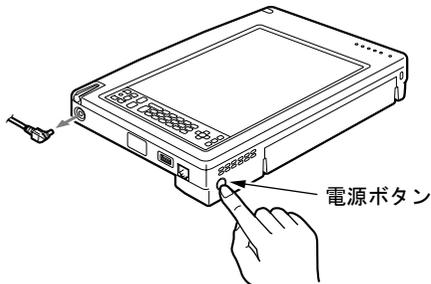
POINT

- ▶ 充電時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→ P.96) をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、または 1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリーを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリーの充電は、LED がグリーン点灯するまで十分に時間をかけて行い、バッテリーを満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリー残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリー運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働いて充電が行われない場合があります(充電 LED がオレンジ点滅します)。しばらくして、バッテリーの温度が低下すると充電が開始されます。
- ▶ バッテリー残量が 0%の場合、しばらくの間充電 LED が点灯しないことがあります。充電が開始されてしばらくすると充電 LED が点灯します。

バッテリーを運用する

ここでは、本パソコンをバッテリーで運用する場合について説明します。

- 1 ACアダプタを取り外し、電源ボタンを押します。
PowerLEDなどが点灯し、本パソコンが動作状態になります。



POINT

- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリー稼働時間は短くなります。
- ▶ バッテリー稼働時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→ P.96)をご覧ください。
- ▶ バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。

バッテリー残量を確認する

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリー残量表示で確認できます。

■ バッテリーの残量表示 (バッテリー残量 LED)

本パソコンが動作状態のときは点灯し、スタンバイ状態のときは点滅します。

グリーン点灯／点滅 約 100 ～ 50% のバッテリーレベルを示します。

↓

オレンジ点灯／点滅 約 49 ～ 13% のバッテリーレベルを示します。

↓

レッド点灯／点滅 LOW バッテリー状態 (約 12% 以下のバッテリーレベル)、または DEAD バッテリー状態 (0% のバッテリーレベル) を示します。

POINT

- ▶ バッテリー残量表示は、バッテリー (リチウムイオン電池) の特性上、使用環境 (温度条件やバッテリーの充放電回数など) により、実際のバッテリー残量とは異なる表示をすることがあります。
- ▶ バッテリー残量が 90% 以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89% 以下で充電されます。

■ バッテリー温度アラームの表示（充電 LED）

充電 LED のオレンジ点滅は、バッテリーパックが熱をもって温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったときに、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくしてバッテリーパックの温度が平常に戻ると、オレンジ点灯になり充電を再開します。

■ バッテリーの異常表示（バッテリー残量 LED）

バッテリー残量 LED のレッド点滅は、バッテリーが正しく充電できないことを表しています。

POINT

- ▶ バッテリー残量 LED がレッド点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでもレッド点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。
「ハードウェア」－「バッテリーパックを交換する」（→ P.56）

■ LOW バッテリー状態の表示

バッテリーが LOW バッテリー状態になると、状態表示 LED がレッド点灯／点滅します。

POINT

- ▶ Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます（→『ソフトウェアガイド』の「機能」－「省電力」）。
ただし、スピーカーを OFF にしていると、警告音が聞こえません。スピーカーボタンを押して、スピーカーの ON と OFF を切り替えてください。ピッと音がした場合は ON、音がしない場合は OFF になります。
- ▶ OS の起動前（BIOS セットアップなど）では、警告音が鳴るように設定できません。

■ LOW バッテリー状態の対処

1 バッテリーを充電するか、バッテリーを交換します。

AC アダプタを接続してバッテリーを充電してください。また、携帯時など、AC アダプタを接続できない場合は、作業を終了させて電源を切ってください。その後、バッテリーパックを交換してください (→ P.56)。

POINT

- ▶ LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ▶ ハードディスクへの読み書きは大量の電力を使います。LOW バッテリー状態で、ハードディスクへデータを保存する場合は、AC アダプタを接続してください。
- ▶ LOW バッテリー状態のまま放置すると、自動的にスタンバイします。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。
- ▶ 本パソコンではバッテリー残量が約3%になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。設定を変更する場合は、次の項目のチェックを外してください。
 - ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」ただし、設定を変更すると、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。そのため、作成中や保存中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

取り扱い上の注意

⚠ 警告



- **バッテリーは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーは、使用しないでください。感電や破裂の原因となります。**

- **分解しないでください。**
バッテリーを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。
- **放電について**
 - ・バッテリーは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
 - ・長期間（約1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- **寿命について**
 - ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。
 - ・高温環境に放置した場合、バッテリーの消耗、劣化が進みます。
 - ・バッテリーは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリーと交換してください。
 - ・バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリーの寿命です。
 - ・寿命になったバッテリーは、パソコン本体から取り外してください。取り付けのまま放置すると、感電や火災の原因となります。
- **廃棄について**
バッテリーを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。
- **バッテリー稼働時間について**
 - ・バッテリー稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します（→『ソフトウェアガイド』の「機能」－「省電力」）。
 - ・バッテリー稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリー稼働時間が短くなる場合があります。
- **次のような場合はACアダプタを使用してください**
 - ・ハードディスクやCDなどを頻繁に使用するとき
 - ・LANやモデムを頻繁に使用するとき
 - ・本パソコンをご購入時の状態に戻すとき

バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、バッテリーパックの交換について説明します。

警告

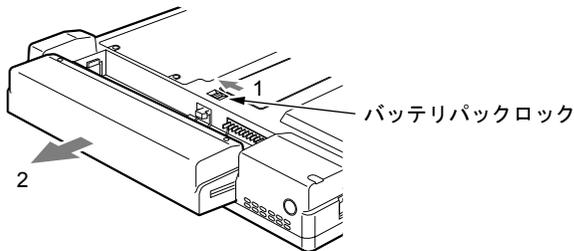


- バッテリーパックの交換を行う場合は、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリーパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

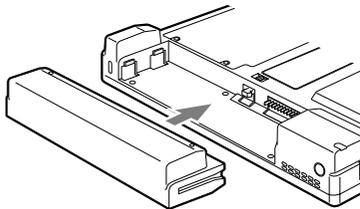
POINT

- ▶ 新しいバッテリーパックは、次の製品をお買い求めください。
品名：バッテリーパック
型名：FMP-BP12
(ご購入元にお問い合わせください)

- 1 パソコン本体の電源を切り（→ P.28）、ACアダプタを取り外します。
- 2 パソコン本体を裏返します。
- 3 バッテリーパックを取り外します。
バッテリーパックロックをスライドさせながら (1)、バッテリーパックを取り外します (2)。



- 4 新しいバッテリーパックを取り付けます。
パソコン本体の溝に合わせて、バッテリーパックをスライドして取り付けます。



重要

- ▶ 取り外したバッテリーパックは、ショート（短絡）防止のために、バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外したバッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、バッテリーパック（リチウムイオン電池）は、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

 **POINT**

- ▶ 本パソコンは、バッテリー運用時でもパソコン本体がスタンバイ状態か休止状態であれば、バッテリーパックの交換が行えます。その際は次の点に注意し、充電済みのバッテリーパックと交換してください。
- ・スタンバイする前にデータを保存してください。
 - ・バッテリーパックは、3分以内に交換してください。
 - ・バッテリーパックの交換中に電源ボタンを押さないでください。
 - ・バッテリーパックの交換後、パソコン本体をレジュームさせる場合は、バッテリーパックがロックされていることを確認してください。
- なお、ご購入時および長時間本パソコンをご使用にならなかった場合は、バッテリーパックを交換する前に、ACアダプタでの通電を半日以上行ってください。また、パソコン本体のバッテリーパック接続端子には触れないでください。

5 ポートリプリケータについて

ポートリプリケータを取り付ける

⚠ 注意



故障

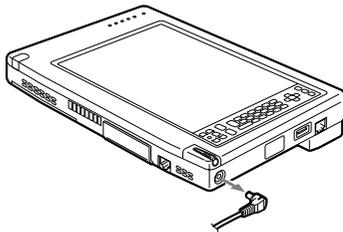
- ポートリプリケータの取り付けを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。故障の原因となります。



けが

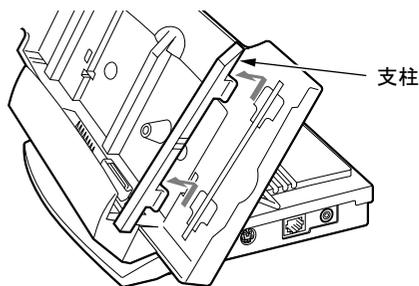
- パソコン本体にポートリプリケータを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。けがの原因となることがあります。

- 1 パソコン本体の電源を切り（→ P.28）、ACアダプタを取り外します。ヘッドホンやマイクを接続している場合は、取り外してください。



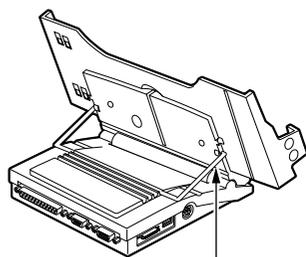
🔍 POINT

- ▶ 拡張コネクタ（→ P.15）にカバーがついている場合は、取り外してください。
- ▶ ポートリプリケータの支柱がついている場合は、支柱を真下から真上にスライドさせて取り外してください。



2 ポートリプリケータを固定します。

角度調節バーで、ポートリプリケータを固定します。



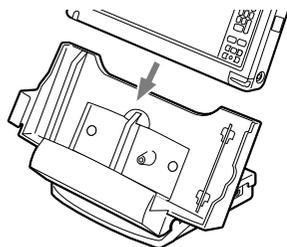
角度調節バー

重要

- ▶ ポートリプリケータにパソコン本体を取り付ける場合は、角度調節バーでポートリプリケータをしっかり固定してください。不安定なまま使用すると、パソコン本体が倒れて故障の原因となることがあります。

3 パソコン本体を取り付けます。

パソコン本体をしっかりと押し込みます。



POINT

- ▶ ポートリプリケータに AC アダプタを取り付けてください。
- ▶ ポートリプリケータの詳細については、装置に添付のマニュアルをご覧ください。

ポータリプリケータを取り外す

⚠ 注意



故障

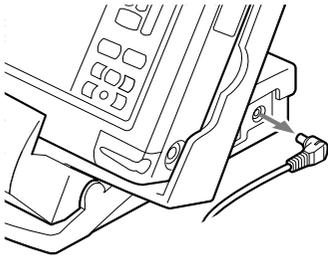
- ポータリプリケータの取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。故障の原因となります。



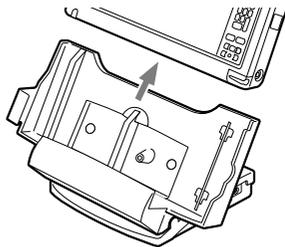
けが

- ポータリプリケータからパソコン本体を取り外したり、ポータリプリケータの角度調節バーのロックを解除したりする場合は、指をはさまないよう注意してください。けがの原因となることがあります。

- 1** パソコン本体の電源を切り (→ P.28)、ACアダプタを取り外します。
ヘッドホンやマイクを接続している場合は、取り外してください。



- 2** パソコン本体を取り外します。
ポータリプリケータを押さえながらパソコン本体を取り外します。



👉 重要

- ▶ 角度調節バーのロックを解除する前に、必ずポータリプリケータからパソコン本体を取り外してください。
パソコン本体、ポータリプリケータが倒れて故障の原因となることがあります。

6 メモリについて

メモリを交換する

ここでは、本パソコンに搭載されているメモリの交換について説明します。

警告



感電

- メモリを交換する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。感電の原因となります。



誤飲

- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



高温

- メモリを交換するときは、パソコン本体の電源を切って、しばらくしてから行ってください。火傷の原因となることがあります。



故障

- メモリの交換を行うときは、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。



故障

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。



故障

- メモリの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってください。スタンバイや休止状態で行うと、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

重要

- ▶ 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジのサイズ (M2.0) に合ったプラスのドライバー 1 番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。
- ▶ 取り付けるメモリは、本パソコンでサポートしているメモリをご使用ください。FMVNM25SF (256MB)、FMVNM51S (512MB) がお使いになれます。

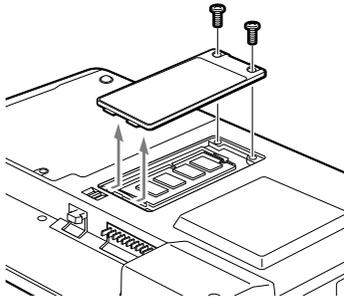
POINT

- ▶ メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「全メモリ容量」の項目を見ます (→ P.83)。「256MB SDRAM」などと取り付けたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障または不良です。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ メモリを拡張する場合は、工場出荷時に取り付けられているメモリより大容量のものに交換してください。
- ▶ パソコン本体の電源を入れる前に必ずメモリを取り付けておいてください。
- ▶ 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。

1 バッテリーパックを取り外します。

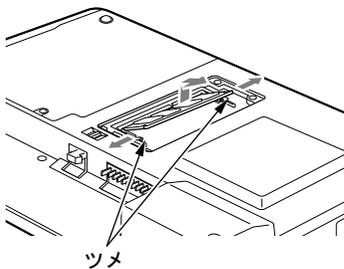
「バッテリーパックを交換する」の手順 1～3 (→ P.56)。

2 ネジ(2ヶ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。



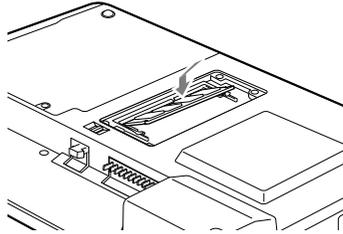
3 メモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。

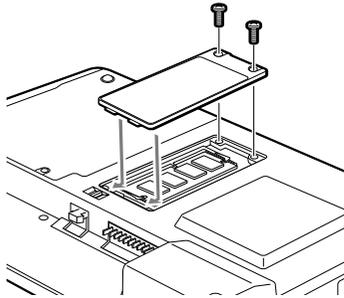


4 新しいメモリを取り付けます。

メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかり差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。

**5** 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。

手順 2 で外したカバーを取り付けます。

**6** バッテリーパックを取り付けます。

「バッテリーパックを交換する」の手順 4 (→ P.56)。

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切り、メモリを取り付け直してください。

7 PCカードについて

取り扱い上の注意

⚠ 注意



- 故障 ● PCカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。PCカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故障を防ぐため、PCカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

👉 重要

- ▶ ペンを画面に触れたままPCカードのセット／取り出しを行うと、ペン操作が行えなくなる場合があります。この場合は、パソコン本体を数回スタンバイ／レジュームさせてください。

🔍 POINT

- ▶ 本パソコンではLANカードまたはモデムカードが使えない場合があります。
- ▶ LANをお使いになる場合は、パソコン本体またはポートリプリケータのLANコネクタのご使用をお勧めします。
- ▶ 本パソコンでは、3.3Vまたは5Vを使用するPCカードのみサポートしています。12Vを使用するPCカードはサポートしていません。

PCカードをセットする

ここでは、PCカードのセットについて説明します。

⚠ 注意



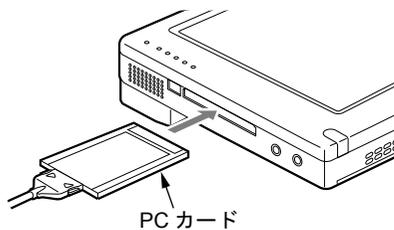
- PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れないでください。けがの原因となることがあります。

🔍 POINT

- ▶ PCカードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになるPCカードのマニュアルで確認してください。
- ▶ PCカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになるPCカードのマニュアルをご覧ください、必要に応じてドライバをインストールしてください。

1 パソコン本体左側面のPCカードスロットに、PCカードをセットします。

PCカードの製品名を上にしてPCカードスロットにしっかりと差し込みます。



🔍 POINT

- ▶ コード付きのPCカードをお使いの場合、PCカードとコードを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶつけたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ 本パソコンにはPCカードのロック機構がありません。コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードは、コードやケーブルを引っ張らないでください。PCカードが抜けるおそれがあります。

PC カードを取り出す

ここでは、PC カードの取り出し方について説明します。

POINT

- ▶ コード付きのPCカードを取り出す場合、PCカードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PCカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PCカードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルで確認してください。

注意



高温

- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順3の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



けが

- PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。

1 タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをタップします。

POINT

- ▶ タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップしてPCカードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXX を安全に取り外します」をタップします。

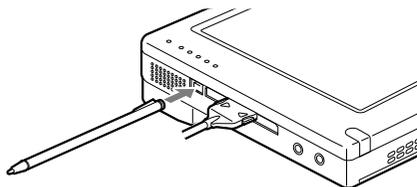
XXXXXXには、お使いのPCカードの名称が表示されます。

POINT

- ▶ 「デバイス'汎用ボリューム'を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をタップし、PCカードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順1からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

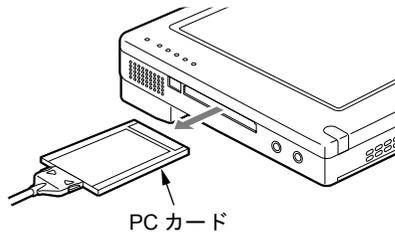
4 PCカード取り出しボタンを添付のペンの背で押します。



POINT

- ▶ 添付のペンの先で押さないでください。破損の原因となります。

5 PCカードを取り出します。



8 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

警告

-  感電 ● 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
- ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

第 5 章

BIOS

5

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの様子は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1	BIOS セットアップとは	70
2	BIOS セットアップの操作のしかた	71
3	ご購入時の設定に戻す	77
4	メニュー詳細	78
5	BIOS のパスワード機能を使う	85
6	BIOS が表示するメッセージ一覧	88

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト (POST) で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.71）の「項目ヘルプ」をご覧ください。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断テスト (POST (ポスト))
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST: Power On Self Test) といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をペンまたは別売のキーボードで行います。

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示LEDのハードディスクアクセスLEDが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「<ESC>キー：自己診断画面 / <F12>キー：起動メニュー / <F2>キー：BIOS セットアップ」または「<ESC>、タップ：診断画面 / <F12>、トリプル：起動メニュー / <F2>、ダブル：BIOS セットアップ」と表示されている間に、画面の適当な場所をダブルタップするか、キーボード（別売）接続時は【F2】キーを押してください。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

メニューバー

メニューの名称が表示されます。

カーソル

設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ

カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド

各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ						
メイン	詳細	セキュリティ	省電力	起動	情報	終了
	システム時刻: 12:34:56 システム日付: [XXXX/XX/XX] フロッピーディスクA: [1.44/1.2 MB 3.5"] ▶プライマリマスター [XXXXX XXXXXXXX]				項目ヘルプ 現在の時刻を、時：分：秒で設定します。(24時間制) <Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。	
	言語 (Language): [日本語 (JP)]				<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。	
F1 ヘルプ ↑ 項目選択 ↓ - 値の変更 Space F9 標準設定 Esc 終了 ← メニュー選択 → Enter ▶サブメニュー選択 F10 保存して終了						

 **POINT**

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく OS が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ▶ 手順 3 で【F12】キーを押すかトリプルタップすると、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、〈BIOS セットアップを起動〉を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

起動メニュー	
1.	*フロッピーディスクドライブ
2.	*ハードディスクドライブ
3.	オプティカルメディアドライブ
〈BIOSセットアップを起動〉	

設定を変更する

BIOS セットアップの各設定は、ペンまたは別売のキーボードで行います。ここでは一般的な操作方法を説明します。

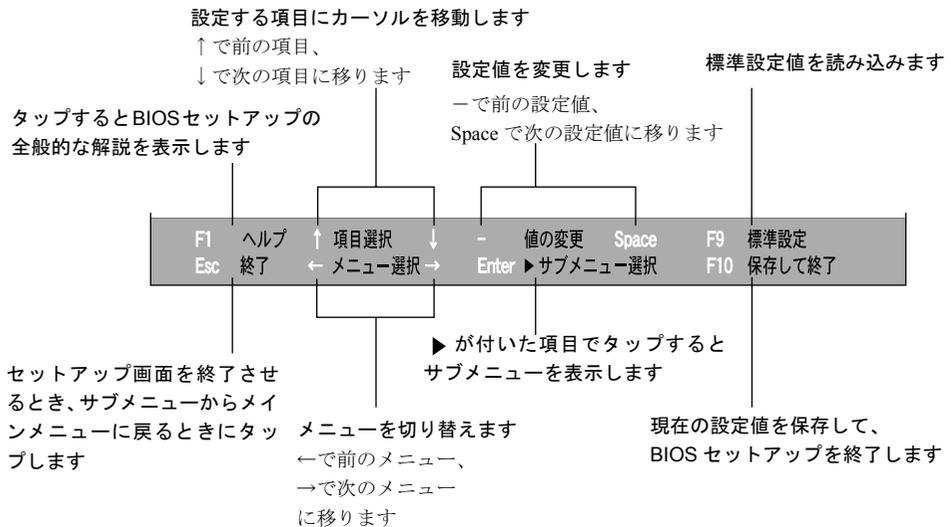
■ ペンで設定する場合

POINT

- ▶ ペンで軽く画面を1回押すことをタップ、2回続けて押すことをダブルタップといいます。

ペンで設定する場合は、設定したい項目を直接タップするか、セットアップ画面の下端に表示されている設定バーをタップします。

- 項目を直接操作する場合
変更したい項目の設定値をタップすると、設定値が反転表示されます。再度タップすると、次の設定値が表示されます。希望の設定値が表示されるまでタップしてください。
- 設定バーで操作する場合
次のように割り当てられています。各項目をタップして、設定値を変更します。



POINT

- ▶ サブメニューを表示しているときはメニューバーの「サブメニュー終了」をタップしても、1つ上のメニュー画面に戻ります。

■ キーボードで設定する場合

- 1** 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2** 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。
- 3** 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。
続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。
- 4** 設定を保存して終了します。
「BIOS」－「BIOS セットアップを終了する」(→ P.76)

重要

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

POINT

- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「BIOS」－「終了メニュー」(→ P.84)をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→ P.77)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
サブメニューが表示しているときは、メニューバーの「サブメニューの終了」をタップしても元のメニュー画面に戻ります。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【PgUp】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
【PgDn】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
【Home】キー	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
【End】キー	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
【F5】キー、【-】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【F6】キー、【Space】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOSセットアップを終了します。
【Esc】キー、 【Alt】 + 【X】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【F1】キー、 【Alt】 + 【H】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。

POINT

▶ ここでいう【-】キーは  のことです。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 「終了」をタップします。

「終了」メニューが表示されます。

2 「変更を保存して終了する」をタップします。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ

3 「はい」をタップします。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、「サブメニュー終了」を1～2回タップしてください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」をタップして終了してください（→P.84）。
- ▶ いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→P.84）。
 1. 「終了」メニューの「変更を保存する」をタップします。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 2. 「はい」をタップします。

3 ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定値を、本パソコンご購入時の状態に戻す方法について説明します。
BIOS セットアップを起動し、「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行します（→ P.84）。

4 メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

システム時刻

システム日付

フロッピーディスク A

 **POINT**

- ▶ ポートリブリーケータのFDDユニットコネクタにFDDユニット(FMV-NFD324)を接続する場合は「1.44/1.2MB 3.5"」に設定してください（ご購入時の設定）。
- ▶ FDDユニット(USB)にセットしたフロッピーディスクから起動する場合は「使用しない」に設定してください。

プライマリマスター

 **POINT**

- ▶ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(→P.84)を実行した直後は、「プライマリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

● タイプ

 **POINT**

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。

- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- PIO 転送モード
- DMA 転送モード

言語 (Language)

 **POINT**

- ▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

□ シリアル/パラレルポート設定

POINT

- ▶ I/O ポートアドレス、割り込み番号、DMA チャンネルは、複数のデバイスに同じ設定値を割り当てないように注意してください。同じ設定値を割り当てると、項目名の左に*が表示されます。

- シリアルポート
 - ・ デバイス

POINT

- ▶ シリアルポートのデバイスを「システム I/F ポート」に設定するとポートリプリケータのシリアルコネクタが使用できるようになります。また、「システム I/F ポート」に設定した場合は、パソコン本体の赤外線通信ポートが使用できなくなります。

- ・ I/O アドレス
- ・ 割り込み番号
- ・ I/O アドレス
- ・ DMA チャンネル
- パラレルポート
 - ・ モード
 - ・ I/O アドレス
 - ・ 割り込み番号
 - ・ DMA チャンネル

POINT

- ▶ 「DMA チャンネル」は、「モード」の項目を「ECP」に設定しているときに表示されます。通常「DMA チャンネル」は「DMA 1」に設定してください。

□ キーボード設定

- 起動時の Numlock 設定
- ホットプラグ

POINT

- ▶ ホットプラグ機能を有効にした状態で、お使いのキーボードやマウスの動作に異常が見られる場合は、ホットプラグ機能を無効にしてください。

□ ディスプレイ設定

- ディスプレイ

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、コントロールエリアの 、または「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます（→『ソフトウェアガイド』の「機能」－「表示装置の切り替え」）。

□ その他の内蔵デバイス設定

- IDE コントローラ
- 内蔵 LAN デバイス

POINT

- ▶ 本項目が「自動」に設定されている場合、バッテリー運用で本パソコンを起動すると、本パソコンは LAN ケーブルの接続を確認します。このとき、LAN ケーブルが接続されていないと、本パソコンは省電力のため内蔵 LAN デバイスを使用禁止にします。

□ PCI 設定

- 割り込み番号の予約
 - ・ IRQ 3 ~ IRQ 15

□ CPU 設定

- SpeedStep (R) テクノロジー
 - ・ バッテリー運用時
 - ・ AC 運用時

□ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX」というメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
 - ・ システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

管理者用パスワード

ユーザー用パスワード

管理者用パスワード設定

POINT

- ▶ 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数
 - ・ 起動時のパスワード
 - ・ 取外し可能なディスクからの起動
 - ・ フロッピーディスクアクセス
 - ・ ハードディスクセキュリティ
 - ・ 所有者情報

ユーザー用パスワード設定

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ▶ 本項目はユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードで BIOS セットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

起動時のパスワード

取外し可能なディスクからの起動

フロッピーディスクアクセス

POINT

- ▶ 本項目は、BIOS 経由でアクセスしない OS (Windows XP など) では、正しく動作しません。
- ▶ FDD ユニット (FMV-NFD324) へのアクセス制限のみできます。

□ハードディスクセキュリティ

- プライマリマスター

重要

- ▶ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。

□所有者情報

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されませんが、選択できません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

□ハードディスク起動セクタ

POINT

- ▶ OSをインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ▶ この設定は、BIOSを経由しないで直接ハードディスクにアクセスするOS(Windows XPなど)では、正しく動作しません。

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、LANによるレジュームの設定を行います。

- LANによるレジューム

POINT

- ▶ BIOS セットアップと OS の両方で設定されている場合のみ有効です。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

- 高速起動
- 起動時の自己診断画面
- ネットワークサーバからの起動
- 起動デバイスの優先順位
 - フロッピーディスクドライブ
 - ハードディスクドライブ
 - オプティカルメディアドライブ

POINT

- ▶ 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。
- ▶ 「オプティカルメディアドライブ」は、USB 経由の CD-ROM ドライブを接続した場合に有効です。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

- BIOS 版数
- BIOS 日付
- BIOS 領域
- CPU タイプ
- CPU 速度
- L1 キャッシュ
- L2 キャッシュ
- 全メモリ容量
 - メモリスロット

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

変更を保存する

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

5 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

- 管理者用パスワード
本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
「BIOS」－「BIOS セットアップを起動する」(→ P.71)
- 2** セキュリティメニュー (→ P.81) で設定したいパスワードを選択して「Enter」をタップします。
 - ・ 管理者用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード設定パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3** 8桁までのパスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード設定」(→ P.81) で設定することができます。

4 パスワードを入力したら「Enter」をタップします。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して「Enter」をタップします。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 【継続】をタップして、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。「継続」をタップして、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、「Esc」をタップしてください。

■ パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

パスワードの入力を要求するウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、「Enter」をタップしてください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「電源オプションのプロパティ」で、スタンバイや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

重要

- ▶ ハードディスクセキュリティ (→ P.82) を設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」までご連絡ください。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1** 「パスワードを設定する」の手順 1～2 (→ P.85) を行います。
- 2** 設定してあるパスワードを入力し、「Enter」をタップします。
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
- 3** 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、「Enter」をタップします。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 4** 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して「Enter」をタップします。
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
- 5** 「継続」をタップして、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。「継続」をタップして、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、「Esc」をタップしてください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3～4 で何も入力せずに、「Enter」をタップしてください。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

6 BIOSが表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。
それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→P.77）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。
それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。
また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST (→ P.70) 時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ キー操作には、キーボード（別売）が必要です。
- ▶ メッセージ中の「n」、「x」、「z」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

- < ESC > : 診断画面 / < F2 > : BIOS セットアップ / < F12 > : Boot メニュー
起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。また、【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面 (→ P.72) が表示されます。
- < タップ > : 診断画面 / < ダブル > : BIOS セットアップ / < トリプル > : Boot メニュー
起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に画面をタップすると起動時の自己診断画面が表示され、画面をダブルタップすると BIOS セットアップが起動します。また、画面をトリプルタップすると「起動メニュー」画面 (→ P.72) が表示されます。
- < F12 > , トリプル : 起動メニュー / < F2 > , ダブル : BIOS セットアップ
起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に画面をトリプルタップするか、または【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面 (→ P.72) が表示され、画面をダブルタップするか、または【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。
- BIOS セットアップを起動しています ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- nnnM システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを表示しています。
- nnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ビデオ BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
ビデオ BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ハードディスク 0 : *****
ハードディスクが正常に認識できたことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、外部マウスが使えるようになったことを示しています。

- ペンが初期化されました。
ペン機能が初期化され、ペンが使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、タップするかもしくは【Esc】キーを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」(→P.83)の項目を「表示する」に設定してください。

■ エラーメッセージ

- システムメモリエラー。オフセットアドレス：xxxx
誤りビット：zzzz zzzz
システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを拡張しているときは、このパソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- 拡張メモリエラー。オフセットアドレス：xxxx
誤りビット：zzzz zzzz
拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを拡張しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- メモリキャッシュのエラーです。--キャッシュは使用できません。
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボードコントローラのエラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- フロッピーディスク Aのエラーです。
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- ディスクエラーです。:ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システムタイマーのエラーです。**

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **System CMOS checksum bad-Default configuration used**

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。**

前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中で電源を切ってしまうたり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったときに表示されます。そのまま起動する場合はタップをするか、【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は、ダブルタップをするか【F2】キーを押してください。
- **Double tap the pen(or press <F2>) to Enter Setup**

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。タップをするか、【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、ダブルタップをするか【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**

日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **パスワードで保護されています。:ハードディスク n**

取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- **サポートされないタイプのメモリが検出されました。**

本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
メモリを拡張しているときは、このパソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **メモリアイプのエラーです。 : SPD が 66MHz/100MHz のメモリを示しています。**
本システムには 133MHz のメモリが必要です。電源を切ってください。
本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
メモリを拡張しているときは、このパソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。**
システムを正しく動作させるためには SPD が必要です。
メモリ速度 133MHz で起動しますか？
< Enter > を押すとこのまま起動し、< ESC > を押すとシステムを停止します。
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
【ESC】をタップして電源を切り、メモリを拡張しているときは、このパソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。**
メモリ速度 133MHz で起動します。
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
メモリを拡張しているときは、このパソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。 - データが正しくありません。**
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。
- **Operating system not found**
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

 **POINT**

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

Memo

第 6 章

技術情報

6

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	96
2 コネクタのピン配列と信号名	98
3 コアの取り付け	99

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		FM PenNote model T1 ^{注1}	
CPU ^{注2}		モバイルインテル [®] Pentium III [®] プロセッサ 866 MHz	
キャッシュメモリ		1次 32KB + 2次 512KB (CPU内蔵)	
チップセット		インテル [®] 830MG チップセット	
システムバスクロック		133MHz	
メインメモリ		標準 256MB (PC133 SDRAM DIMM) ECCなし 最大 512MB	
拡張メモリスロット		×1 (空きスロットなし)	
表示機能	画面制御	チップセットに内蔵	
	ビデオメモリ	最小 8MB / 最大 48MB (メインメモリと共用) ^{注3}	
	液晶ディスプレイ ^{注4}	8.4型 TFT カラー 800 × 600 ドット	
	解像度/発色数	液晶ディスプレイ表示: 800 × 600 ドット / 1677 万色 ^{注5} 外部ディスプレイ表示 ^{注6} : 最大 1280 × 1024 ドット / 最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示 ^{注6} : 800 × 600 ドット / 1677 万色 ^{注5}	
ハードディスクドライブ ^{注7}		30GB (Ultra ATA100)	
オーディオ機能	サウンドコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック	
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数最大 48kHz 16bit ステレオ 同時録音再生機能	
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート	
	スピーカー	モノラルスピーカー内蔵	
ポインティングデバイス		タッチパネル	
通信機能	モデム	データ: 最大 56kbps (V.90 規格準拠) ^{注8} / FAX: 最大 14.4kbps	
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T 準拠 ^{注9}	
インターフェース	本体	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 1 スロット (CardBus 対応)
		USB	USB1.1 準拠 シリーズ A × 1 ^{注10}
		モデム	RJ-11 × 1
		LAN	RJ-45 × 1
		赤外線	IrDA1.1 準拠 (最大 4Mbps) × 1
		サウンド	マイク: φ 3.5mm モノラル・ミニジャック × 1、 ヘッドホン: φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック × 1
		ポートリプリケータ	専用コネクタ 100ピン × 1
		状態表示	LED
電源供給方式	AC アダプタ	入力 AC100V ~ 240V、出力 DC16V (3.75A)	
	バッテリー	内蔵バッテリーパック: リチウムイオン 10.8V/3400mAh	

製品名称	FM PenNote model T1 注1
バッテリー稼働時間注11 (JEITA 測定法 1.0)	約 4 時間
バッテリー充電時間注12	約 6 時間
消費電力注13	約 60W 以下 (AC 運用時)
省エネ法に基づく エネルギー消費効率注14	S 区分 0.00037
外形寸法	W244 × D160 × H28 ~ 39.9mm (突起含まず)
質量	約 1.25kg
盗難防止用ロック	あり
ブレイストール OS	Windows XP Professional (Service Pack 1) (DirectX 8.1 対応)

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

注について

注 1 : 本パソコンの技術基準適合認証番号は、A02-0575JP、D02-1005JP です。

注 2 : アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。

注 3 : パソコンの使用状況によって VRAM 容量が異なります。

注 4 : 以下は液晶ディスプレイの特性なので故障ではありません。あらかじめご了承ください。

- ・ 本パソコンの TFT カラー液晶ディスプレイは、高度な技術を駆使し、一画面上に 144 万個以上 (解像度 800 × 600 の場合) の画素 (ドット) より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・ 本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、液晶ディスプレイの特質上、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

注 5 : 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能 (擬似的に色を表示する機能) によって、1677 万色で表示されます。

注 6 : 別売のポータリブリエータ (FMP-CBX8) が必要です。

注 7 : 容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算値です。

注 8 : 56000bps は V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.90 の 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。

注 9 : 屋内のネットワーク専用です。

注 10 : ・ すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。

- ・ 外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

注 11 : 社団法人 電子情報技術産業協会の『JEITA バッテリー動作時間測定法 (Ver1.0)』 (<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>)。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。

注 12 : 電源 OFF またはスタンバイ時。装置の動作状況により、充電時間が長くなる場合があります。

注 13 : その他の消費電力については以下の通りです。

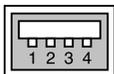
- ・ 電源 OFF 時の消費電力 : 約 0.4W 以下 (満充電時)
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 動作時の最大消費電力 / 最小消費電力 : 約 60W / 約 14W 以下

注 14 : スタンバイ時 (充電なし。AC アダプタを含む)。

エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

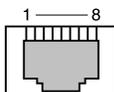
2 コネクタのピン配列と信号名

■ USB コネクタ



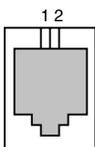
ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	− DATA	入出力	−データ信号
3	+ DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

■ LAN コネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD +	出力	送信データ+
2	TD −	出力	送信データ−
3	RD +	入力	受信データ+
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD −	入力	受信データ−
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

■ モデムコネクタ (モデム)

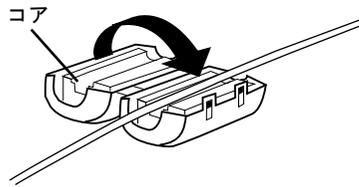


ピン番号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

3 コアの取り付け

本パソコンのLANを使用する場合は、不要電波の輻射を軽減させるために、LANケーブルに添付のコアを取り付けてください。また、コアを取り付けた側のプラグをパソコン本体に差し込んでください。

- 1** LANケーブルのプラグのすぐうしろに、コアを取り付けます。
コアを閉じるときに、ケーブルをはさみこまないよう注意してください。



索引

B

BIOS セットアップ	70
-各キーの役割	75
-起動する	71
-終了する	76
-設定を変更する	73
BIOS セットアップ画面	71
BIOS のパスワード機能を使う	85

C

Caps Lock ランプ	48
---------------	----

D

DC-IN コネクタ	16
DEAD バッテリ状態	52

E

【Esc】キー	23
---------	----

H

HDD アクセス LED	22
--------------	----

L

LAN コネクタ	15, 98
LOW バッテリ状態	52, 53

N

【Num Lk】キー	23
Num Lock ランプ	48

P

PC カード	64
PC カードスロット	17
PC カード取り出しボタン	17
POST	27, 70
Power LED	21

S

Scroll Lock ランプ	48
-----------------	----

U

USB コネクタ	16, 98
----------	--------

あ行

液晶ディスプレイ	15
-お手入れ	68
エラーメッセージ	90

か行

カーソルキー	23
拡張 RAM モジュールスロット	19
拡張コネクタ	15
管理者用パスワード	85
キーボード	44
起動時の自己診断テスト	70
起動メニュー	83
吸気孔	15
コア	99
コネクタのピン配列と信号名	98
コントロールエリア	15, 23

さ行

充電 LED	21
充電する	51
周辺機器	40
終了メニュー	84
詳細メニュー	79
状態表示 LED	14, 21
省電力メニュー	82
情報メニュー	83
スピーカー	17
スピーカーボタン	24
正常時のメッセージ	89
赤外線通信ポート	16
セキュリティ	30
セキュリティメニュー	81

た行

タッチパネル	41
テンキー	23, 48
テンキーモード	48
電源の入れ方	27
電源の切り方	28

電源ボタン	20
盗難防止用ロック	19
ドラッグ	43

な行

内蔵マイク	14
-------	----

は行

ハードウェアのお手入れ	68
排気孔	19
パスワード (BIOS)	85
— 削除する	87
— 設定する	85
— 変更する	87
パソコン本体のお手入れ	68
バッテリー	51
— の異常表示	53
— の残量表示	52
— LOW バッテリー状態	53
— 運用する	52
— 充電する	51
— 取り扱い上の注意	55
バッテリー温度アラーム	21, 53
バッテリー残量 LED	22
バッテリーパック	19
— 交換する	56
バッテリーパックロック	19
表示切り替えボタン	23
ブライトネスボタン	24
ヘッドホン端子	17
ペン	
— 収納スロット	15
ペン操作	
— タップ	43
— ダブルタップ	43
— トリプルタップ	43
— 右タップ	43
ポインティングデバイス	41
ポートリプリケータ	58
— 取り付け	58
— 取り外す	60
ホバーリング LED	22
ホバーリングボタン	24
ホバーリングモード	42

ま行

マイク端子	18
右タップボタン	24

メインメニュー	78
メッセージ一覧	89
メッセージが表示されたとき	88
メモリ	61
モデムコネクタ	16, 98

や行

ユーザー用パスワード	85
------------	----

わ行

ワイヤレスキーボード	44
— ID の設定	45
— 電池交換	46
ワイヤレスキーボード受光部	15

Memo

FM PenNote model T1

ハードウェアガイド
B5FH-7261-01-00

発行日 2003年2月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。